

教員養成系大学大学院における 視覚障害者の白杖歩行訓練に関する演習・講義の事例的検討

○丹所 忍 三科聡子 門脇弘樹 韓星民
(兵庫教育大学 宮城教育大学 山口学芸大学 福岡教育大学)
KEY WORDS: 視覚障害 白杖歩行訓練 大学院講義

I 問題と目的

特別支援学校（視覚障害）では児童生徒への歩行指導が自立活動の時間を中心に行われている。しかしながら、歩行指導の知識・技術を十分には持たない担任教師が試行錯誤しながら行っているという課題がある（首藤・牟田口, 2009）。歩行指導担当者の課題を解決するための方策の一つとして、視覚障害領域の教員免許状を取得可能な教員養成系 A 大学大学院の講義で、視覚障害者の歩行指導に関する演習と講義を行うことを考え、実践を試みた。本研究の目的は、大学院講義で行った視覚障害者の歩行指導の演習・講義の実践を報告するとともに、実践の効果を事例的に検討することであった。

II 方法

1 講義：A 大学大学院の特別支援教育専修免許状取得に対応する授業科目で実践した。隔年開講であり、週 1 回 90 分間（9 時～10 時 30 分：全 15 回）の講義であった。

2 受講生：修士 1 年 13 名と修士 2 年 6 名が受講した。本講義の他に視覚障害領域の講義を受講していない者は 4 名あった。聴覚障害者 1 名、視覚障害者 1 名、及び留学生 1 名が受講した。障害学生支援室の有償ボランティア 2 名が要約筆記、移動時の手引き、及び情報保障等を行った。

3 講義担当者：歩行訓練士の養成過程を修了し、特別支援学校（視覚障害）で歩行指導に携わる経験があった。

4 実施期間：20xx 年 9 月～20xx+1 年 2 月であった。

5 講義目的：視覚障害者の歩行指導に関する演習と講義を通して、指導者としての知識・技術を習得するとともに、視覚障害者の空間認知と心理的特性を理解すること。

6 講義方法と内容の概略：表 1 に講義内容等を示した。主に対面講義とし一部オンライン同期型の回を設定した。講義 1 回の構成は、全体講義・説明、二人一組での演習、全体でのまとめとした。演習では全受講生が指導者役とアイマスクをした視覚障害者役を体験した。主な演習内容は、手引き歩行、屋内移動、大学構内の白杖単独歩行であり、屋内外での目的地歩行ではグループで歩行計画・経路検討を行い、歩行時の様子を動画撮影し、検討結果を全体で発表・討論する回を設けた。

7 課題：毎回、リアクションペーパーに記入して 1 週間以内に提出するよう求めた。最終課題では、手引き歩行研修会の計画立案と研修会用資料の作成・提出を求めた。

表 1 講義計画

回	形式	方法	内容
1	オ同期	講義	講義のオリエンテーション
2	対面	実技	アイズブレイク・視覚以外の感覚を使おう、手引きの基本・合図等
3	対面	実技	手引き歩行：イスへの誘導、狭所、階段昇降
4	各自	講義	講義：視覚障害者の歩行と手引き歩行の意義
5	対面	一	コース行事に参加
6	対面	実技	手引き歩行応用編：構内の自販機・コンビニ等で買物、振り返り
7	対面	講義	援助依頼、触覚的弁別（小銭等）、言葉でのコミュニケーション
8	対面	実技	屋内歩行の基礎（手による伝い歩き、防倒の姿勢、方向の取り方）
9	対面	講義	ワーク：認知地図、場所を特定するための手がかり
10	対面	実技	屋外の目的地歩行：歩行計画：経路検討、グループ討議・発表準備
11	対面	演習	屋外の目的地歩行：発表とまとめ
12	対面	実技	白杖の導入：選定、持ち方・構え方、屋内でのスライド法による伝い歩き
13	対面	講義	白杖の役割・意義、種類、補装具、白杖歩行訓練の歴史、心理的課題
14	対面	実技	白杖の基礎的動作技術、階段昇降、屋外でのスライド法による伝い歩き、ベアリングからの回復
15	対面	実技	屋外の目的地歩行：歩行計画：経路検討、グループ討議・発表準備
16	対面	講義	反復練習の指導の考え方・あり方
17	対面	演習	屋外の目的地歩行：発表とまとめ 1
18	オ同期	演習	屋外の目的地歩行：発表とまとめ 2
19	各自	一	コース行事に参加
20	オ同期	演習	屋外の目的地歩行：発表とまとめ 3
21	オ同期	演習	グループ討議：視覚障害者の歩行訓練から何を学んだのか。視覚障害者の単独歩行を（指導者として）どう捉えるか